様式１

令和５年４月１日

令和５年度　学校経営環境分析書

両城中学校区　校番　１４　学校名　呉市立両城中学校

１　学校の内外環境の分析

外部環境	**O**（支援的要因） 【 保護者・地域 】 ①保護者，地域ともに学校教育に対して協力的である。 ②中学生が参加できる地域の取組がある。 ③中学校区の各学校が，情報の共有を図り，取組に系統性がある。 【 市教委 】 ④「呉の学校教育」に基づき，学校に対する指導・支援がある。 ⑤ＩＴＣ環境の整備を整えている。	**S**（強み） 【 学 校 】 ①教職員全員が「教えて考える授業」を柱に「考えさせる授業」に向けて授業改善に取り組み，学力の定着と向上を図っている。 ②生徒会を中心とした生徒主体の学校づくりを意識して進めている。 ③生徒指導の三機能を基盤に，積極的な生徒指導，生徒主体の取組を組織的に進め，生徒の自己指導能力を高め，自己肯定感・自己有用感の向上につなげている。 ④取組のねらいを明確に示し，組織的にPDCAを進めようとしている。 【 生 徒 】 ⑤前向きに学校生活を送ろうとする生徒が多い。 ⑥ルールを守り，係等責任を持って行っている生徒が多い。	内部環境
	T（阻害的要因） 【保護者・地域】 ①家庭の教育力が低下傾向にある。 （携帯電話使用，ゲーム依存に係るルールの確立・遵守，基本的生活習慣，学習習慣の確立，規範意識の涵養） ②地理的に校区３校間の移動が難しく，児童生徒の交流が持ちにくい。 ③土砂災害警戒区域，急斜面危険区域が校区内にあるため防災教育の充実を図る必要がある。	**W**（弱み） 【 学 校 】 ①「主体的な学び」に向け，授業改善に対する教職員の意識は向上してきている。しかし，生徒の思考を促す発問や切り返し（比較・分類・関連付け・総合等）など，深まりのある話し合いを促す指導は不十分である。メタ認知を高める学習指導が十分であるとはいえない。 【 生 徒 】 ②自分で計画を立てて学習する習慣が十分確立できていない。自力解決する力が弱く，思考力，表現力に課題がある。 ③家庭学習が定着していない。(課題未提出者の固定化等) ④相手意識が低く，言葉づかいなど他者への言動に配慮の欠ける生徒，他者との関係をうまく築くことができない生徒がいる。 ⑤内面的発達の個人差が顕著である。自己肯定感の二極化が見られ，意欲・向上心に課題がある。 ⑥生徒間の人間関係が固定化，グループ化している。	

支援的要因と強みを生かした活動・取組は

○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「教えて考えさせる授業」の推進（Ｓ②③⑤）
○生徒会活動を中心に生徒の自治能力を高める活動の推進・生徒主体の学校づくりの推進（Ｓ⑥⑦）
○目指す児童生徒像の具現化及び夢の実現に向けてチャレンジする生徒の育成（小中一貫教育の充実）（Ｏ③④⑤ Ｓ⑤⑥）

阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

○家庭・地域と連携した生活規律を確立する取組（Ｔ①②　Ｗ②③④）
◎基礎・基本の徹底及び思考力・表現力の向上を図る取組（家庭学習の取組，授業改善の取組）（Ｔ① Ｗ①②③）
○自己肯定感・自己有用感を高める取組（生徒主体の授業づくり，生徒主体の学校づくり）（Ｔ①②③ Ｗ①②③④⑤⑥）
○自己指導能力を育成する取組（振返り・教育相談の充実）（Ｔ①③ Ｗ②③④）
○「特別な教科　道徳」の授業の充実（Ｔ③ Ｗ②④）
○ソーシャルスキルトレーニングなどの手立て（Ｔ③Ｗ④⑤⑥）

２　重点課題

（１）中学校区で育成すべき資質・能力の育成に向け，「主体的な学び」を実現する授業改善を推進する。
・生徒の興味・関心を促す課題を設定し，あるいは設定させ，その課題解決に向けて，生徒が自ら探究活動を進める工夫をする。小中一貫で取り組んでいる「二川授業スタイル」をベースに，「教えて考えさせる授業」を推進し，さらに「考える授業」づくりを進める。

（２）自己指導能力及び自己肯定感・自己有用感を向上させる。
・自己を認識し，自分の人生を選択し，表現する力を育て，夢の実現に向けてチャレンジする生徒を育成する。
・生徒会を中心とした生徒主体の学校づくりの推進を継続する。
・生徒指導の三機能（自己存在感・自己決定・共感的人間関係）を基盤に，積極的な生徒指導を組織的に行う。

（３）自分の命は自分で守る力を向上させる。
・防災教育の深化を図るとともに，生徒主体の取組を推進する。